

## 【研究室紹介】

### 東京家政大学被服衛生学研究室

潮田ひとみ

東京家政大学家政学部

#### 東京家政大学の紹介

東京家政大学は、1881年に渡邊辰五郎が本郷湯島の自宅に「女性に技を身につけ、その技を通して社会的自立を計り、時代の動向を見通していく創造性に富む女性を育てる」ことを目的として裁縫私塾「和洋裁縫伝習所」を開設したのが始まりです。校祖である渡邊辰五郎は、「雛形尺」「袖形」「棗形」を考案し、裁縫教育にかかわる様々な教授法を考えだした人物として知られています。板橋キャンパス内の百周年記念館4階・5階に東京家政大学博物館があり、ここには卒業生から集められた裁縫雛型コレクションが展示されています。裁縫雛型とは、渡邊辰五郎が考えた教授法のひとつで、コート、袴などを実際の1/4、1/5といったミニチュアサイズで作成させたものです。布の使用量を減らし、製作時間を短縮させることができるために、当時は画期的な教授法といわれました。展示されている裁縫雛型をみると、その小ささとそれにともなう可愛らしさを感じますが、それだけでなく、仕上げの丁寧さや墨で書かれた名札からも当時の学生達の気概や誇りを強く感じます。家政大にお越しの際には、博物館にも是非お立ち寄りください。

#### 被服衛生学研究室の紹介

被服衛生学研究室は、板橋キャンパス120周年記念館10階にあります。板橋キャンパスは、北区と板橋区の境にあり、最寄り駅は埼京線の十条駅ですが、町名に加賀とあるように、江戸時代には、加賀藩の江戸下屋敷でした。また、その後、付近一帯が東京第二陸軍造兵廠となったため、人工気候室は東京第二陸軍造兵廠の名残があるレンガ作りの建物の中になります。現在、人工気候室は温湿度の調整が不可能で稼働していません。再稼働させたいですが、設備更新費用だけでなく、現存設備の廃棄費用、移設費用の捻出など課題が山積みです。在職中に再稼働できると良いのですが。

被服衛生学研究室のテーマとしては、大きく二つの柱を掲げています。①衣服の着用快適感に関する研究と②衣生活分野の教材開発です。学生時代から着用時の熱水分移動特性を測定することによって衣服の湿潤にかかわる着用快適感を解明してきました。人工気候室があれば、温湿度計と実験目的にあわせたアンケートと生理値測定装置により、ある程度のデータを得ることができます。しかし、精密な温湿度制御ができない場合には、環境温湿度のばらつきを超えるような大きな刺激を与えない、何を測定したのがわからず、無駄に悩むことになります。そのため、教員養成課程に異動したこともあり、もうひとつの柱として、衣生活分野の教材開発を掲げました。繊維素材の水蒸気にかかわる性質は、繊維固有の性質でありながら、目に見えないわかりにくいため、吸湿性の重要性を理解させる教材を校種にあわせて作成しています。また、手縫い・ミシン・衣服管理に関する教材作成のためにアイカメラを導入し、初心者と熟練者の視線の違いを明らかにすれば、指導ポイントを押さえた教材が作成できると期待しています。更に着用快適感と教材開発の相互にかかる内容として、スポーツウェアの動作性に関する測定も行っています。エアパック型の衣服センサ、筋電センサ、重心動搖装置などを使用することにより、機能的なスポーツウェアの開発指針を示したいと考えています。

修士課程、博士課程もあります。実験の楽しさと結果がでてきたときのワクワク感を共有できる方をお待ちしております。

---

#### <連絡先>

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1  
東京家政大学家政学部 潮田 ひとみ  
電話：03-3961-8568 FAX：03-3961-8568  
eメール：ushioda-h@tokyo-kasei.ac.jp